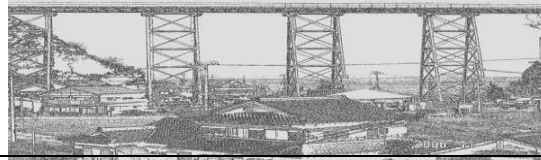


鉄 橋

～心の架け橋～



恭賀新年

2017年(平成29年)は余部地区で大きな工事が完成した年でありました。11月26日は浜坂道路の供用開始となりました。また、空の駅までのエレベーター「余部クリスタルタワー」もこの日から運用開始となりました。余部地区の大きなインフラ工事は一つ区切りとなったのではないかと思います。振り返りますと、余部鉄橋1909年～1912年 余部埼灯台1951年 余部駅1959年 列車転落事故1986年 現橋梁2007年～2010年 余部道路2002年～2010年 空の駅2012年～2013年 余部クリスタルタワー2017年 この100年余りの間に、大きな工事業があり来ました。



エレベーターの利用客はすでに二万人を超えています。多くの観光客を惹きつけているのは、エレベーターだけではなく、空の駅から見ることでできる日本海であり、山の色であり、感じることでできる風や余部の風景そのものではないかと思えます。余部に住み、暮らしているものにとつてはあたりまえの風景が実は大変貴重で尊い自然であることを観光客の多さからあらためて教えられました。ここで生まれ、住み、暮らしている子どもたちが、余部の懐に抱かれながら、家族、地域の方との関わりの中で素直に、たくましく成長してくれることを願ってやみません。

コラム

一月五日、世界保健機構(WHO)はオンラインゲームやテレビゲームのやり過ぎにより、日常生活が困難になる症状を新たな疾病として定義する見通しだとするニュースがあった。コンピュータゲームが日本で最初に発表されたのが1973年と言われている。家庭用テレビと接続したゲーム専用機が生まれ、やがて携帯用ゲーム機、複数で対戦できるものができる、今ではオンラインで見知らぬ人と異なる場所でゲームを楽しめるように進化してきている。

WHOによると「ゲーム障害」はゲームをしたい衝動が抑えられなくなり、日常生活などのことより優先し、健康を損なうなどの問題が起きててもゲームを続けてしまう特徴があるという。1970年大阪万博のテーマは「人類の進歩と調和」であった。岡本太郎作「太陽の塔」は「科学は何のためにあるのか？躍動する生命こそ全ての起源であることを忘れるな」―強烈な生命のエネルギーを発する太陽の塔は浮かれる人類に対する警句だと言われている。

情報通信機器・スマホ・自動化・人工知能(AI)：私たちの周りにあふれ、密接に関わりつつある現在、「ゲーム障害」という疾病は、人と機械(科学)との新たな関係作りの課題を問われていると感じた。

個人情報保護のため、
写真の掲載を控えます。

三学期が始まりました

一月九日(火) 平成29年度の三学期がスタートしました。子どもたちは元気に登校し、友だちと冬休み中の出来事を楽しそうに話していました。年末には、家族の手伝いをしていたと集会の中で話してくれました。始業式では、故星野仙一さんの言葉「野球に恋している」から『あることを義務やいやいややっている人は、それを好きでやっている人にはかなわない』という話や「毎日一生懸命野球をやってきた」から『自分がなりたい目標や誓いを達成しようと思うなら、今、この瞬間の毎日に全力を注ぐことが大切です。例えば、優しい人になりたいなら、まず隣の友だちを大切にしてください。困っているようなら優しく声をかけ、寄り添ってみてください。こうした毎日の積み重ねによって始めて目標に近づくとします。』という旨の話をしました。

新年の誓いに一歩でも近づけるよう、応援したいと思えます。

個人情報保護のため、写真の掲載を控えます。

休業中ウサギの世話をしてくれました